

# 歩 & 目 足ラテス

Vol.87

いさき  
宇部と磯崎、上田孫市物語

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・  
近代化遺産活用アドバイザー

瀬戸内海に面した八幡浜市磯崎、ここは幕末期にシーボルトの弟子となり活躍した蘭学医二宮敬作の生誕地である。この集落の中に、全く知られていないお屋敷が存在する。もう何年も前、ここを初めて訪れた際、独特な長い塀に囲まれたその存在感に目を見張った事を思い出す。ブロック塀のようなグレーの色合いだが、形は煉瓦サイズ。でも赤煉瓦ではなく、愛媛



旧上田孫市邸(現大塚家)

周防灘に面した山口県の宇部は、伊予灘に面した八幡浜磯崎から、海上だと西北西に直線距離で約110km余り。沖ノ山炭鉱など海底炭田の開発を基に発展した産業都市。明治18年生まれの孫市は、長じて父李次郎の坑木業を手伝うようになり、渡った時期は不明だがやがて宇部の材木商として自立する。家督を継いだ同43年には渡邊祐策の経営する沖ノ山炭鉱や神原炭鉱の指定商人として坑木販売を開始している。因みに坑木とは、

ではたまにしか目にしない素材で出来ている。その違和感がとても気になった。これは何か物語がありそうだ、ウォッチャーとしての直観がうずく。

ご縁を得て調べると、やはりなかなかのエピソードが潜んでいた。現在この建物は大家家として守られているが、かつてこれを建てたのが上田孫市という立志伝中の人物だという事にたどり着く。果たして彼はどのような時代を生き、何をしていただけの住居を建てるに至ったのか。そのルーツをたどる為に、山口県宇部市に行かねばならない。



上田孫市

明治期の佐田岬半島では多くの銅鉱山が開発されていたが、宇部では炭鉱地帯、そうした坑道を維持するための坑木需要があつての事である。一方渡邊祐策は明治から昭和にかけて活躍した大実業家で、宇部発展の礎を築いた事で今も敬愛される。炭鉱やセメント製造、窒素など氏の経営する4社が合併したのが後の宇部興産である。何より孫市が経営力を発揮出来たのは、この人物の知遇を得た事が大きかったに違いない。事実、地歩を固めた頃の大正10年、孫市は宇部村議事に立候補し、ヨソ者ながら見事にトップ



愛媛には見られない神棚の意匠



鉱滓煉瓦の塀



凝った庭の様子